

高岡ロータリークラブ

会長／山本 毅 幹事／塩崎 吉康



2022/5/12

No.35

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

例会日：木曜日 12:30～13:30 創立：1951/11/15 チャーターナイト：1952/4/15 創立順位：No.6

司会 竹田 会場監督 点鐘 山本 会長

点鐘

国歌斉唱

ロータリーの目的／四つのテスト

ゲスト

◇ワイナリー・トレポー株式会社 社長 中山安治氏
会長挨拶

5月15日(日) 和倉温泉「あへの風」
〔13:00～15:05〕本会議 I
〔15:20～16:50〕記念講演
〔16:50～17:40〕本会議 II
和倉温泉 「加賀屋」
〔18:30～20:10〕大懇親会
※バス集合出発 10:30H オータ二高岡

委員会報告

◇ロータリーの友紹介…大谷委員長

<ニコニコBOX 27件 56,000円>

山本(毅)会長／皆様、連休はいかがお過ごしでしたか。日本が平和であることに感謝し、平和を守るために行動したいと考えます。日曜日には地区大会があります。中山安治様、卓話よろしくお祈いします。

塩崎(吉)幹事／中山さん、ようこそ高岡ロータリークラブへ。卓話楽しみにしております。

原会員／①ロータリーへの入会を温かい雰囲気を迎えてくださった会員の皆様ありがとうございます。是非よろしくお祈い致します。

②伝統ある高岡ロータリーへの入会に際して多大なるお力添えをいただきました。岡本様、室崎様、加藤様、本当にありがとうございます。

津嶋会員／中山さん、よくぞお越しくささいました。卓話楽しみにしています。

加藤会員／原さん入会おめでとうございます。谷道様／中山様、今年のワインの出来はいかがですか？卓話楽しみにしております。

岡本(欣)君／大和証券 原良輔さんの入会を歓迎します。高岡にもロータリーにも早く慣れ仕事もその他も楽しんでご活躍ください。期待しています！

中村会員／高校ラグビー部の大先輩中山さんの来訪を歓迎して！

高木会員／中山安治様、清水町の高木です。ようこそ高岡ロータリークラブにお越しくささいました。時代をわたり、なおほどばしる情熱に感服いたします。卓話も楽しみにしております。

千田会員／来る 5/15 (日) 9:30～おとぎの森にて「第1回クラシックカーの世界」と題して展示会が開催されます。我が高岡ロータリークラブクラシックカークラブからは四津谷さんの昭和 37 年式マツダ

誕生祝い

安田 勇 さん
(5/4・60才)

皆出席表彰

塩崎 有克さん (37年)
前川 俊朗さん (29年)
西村 博邦さん (26年)
北村 耕作さん (6年)
岡本 一剛さん (6年)
千田 祐司さん (5年)
長柄 洋一さん (3年)
平瀬 裕章さん (1年)

◇本日ご入会者…加藤会員より紹介
原新入会員の入会挨拶
新入会員に会員章ほか贈呈

《新会員プロフィール》

氏名 原 良輔
職業分類 証券業
勤務先 大和証券株式会社
役職 高岡支店 支店長
入会日 2022/5/12

幹事報告

◇7 番テーブルミーティング⇒本日 17:30～山口屋
HN オータ二高岡 17:05 集合

◇地区大会

5月14日(土) 〔15:00～17:25〕和倉温泉「加賀屋」
指導者育成セミナー

R360、折井さんの1969年式VWタイプ3バリエーション、私が1967年式VWタイプ3バリエーションが出席します。入場無料ですので是非冷やかに来てください。皆出席祝ありがとうございます。

山岡会員／仲人を引き受けまして5/3無事結婚式ができました。ニューオータニさんのスタッフ、竹田社長ありがとうございました。

安田君／誕生祝い有難うございます。

塩崎（有）会員／37年皆出席表彰ありがとうございます。

前川君／皆出席いただきまして有難うございます。

西村君／皆出席祝をいただいて

北村君／皆出席表をいただき有難うございます。

津嶋・室崎・大谷・駒井・北村・菅野・山下・四津谷

荒井（公）・野崎君／3番テーブル皆出席です。



卓話

『67歳の挑戦
情熱は伝播する』
中山安治 氏

南砺市立野原でワイナリー「トレボー」を運営している中山安治です。ビールを売らない酒屋を今から4年前の67歳の時に息子に譲り、悠々自適の生活を考えたが、性分に合わず、社会への恩返しをすることにしました。自分が死んでもワイナリーならば、100年先200年先まで社会で生かされると考えた。

ソムリエエクセレンス（シニアソムリエ）として、商売敵を作るなんてと言われながら40人余りのソムリエを育てた。世界のワイナリー視察に30回以上出かけているが、これがワイナリーを作る基盤になった。自分に起きることすべて必然、全部自分にとって良いことばかりだったと思う。

女房にワイナリーを作ると言ったら「どうぞ」という。

「失敗したら破産するかもしれんよ」と言ったら「破産したら付き合っただけ」と言ってくれた。

なぜ、比較的大きなワイナリーを作ったのか？最終到達形から逆算して今すべきことを考え、社員15人の人件費を賄うためのサイズがこの大きさだった。

また、儲からない農業を「農業を科学する」こと、IoTやAIなどを導入して魅力的な農業にしようと考えた。立野原の自然を見た時に「立野原コート・ドール（黄金の丘）構想」を思い立った。自然を満喫できる「果樹の郷」構想だ。

地域に快く受け入れられて、お役にも立てて、喜んでもらえる会社にしたい。

コロナが教えてくれた。社会に必要なか、貢献する会社でなければ存在を許されない。そのような会社に作り変える必要があると思う。

田中市長に相談、共感して頂き、南砺市と富山県農林水産課で「チーム・トレボー」ができ、支援を受けた。日本政策金融公庫からも大きな支援を受けた。

農業への支援が日本は手厚いので、農林水産省や総務省からも大きな支援を受けることができた。

そんな私だが、47歳で癌になった。それから「天の采配」を意識するようになり、運が強くなったと思う。情熱をもって動くことで、周りが化学反応を起こしてくれた。南砺市立野原の17haの畑に41000本のブドウの樹を植えてある。将来、10万本のワインを生産する計画だ。今後は、お客様の方から欲しいと言われてもらえるワインのブランド化を目指す。